

防火区画貫通措置／フィブロック鋼管

★作業条件

貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
穴あけ／貫通作業および鋼製電線管の設置および末端処理(ブッシング)が完了していること
原則として全てのケーブル配線が完了していること
責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること

★準備

図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
モルタル(RC／ALC)
耐熱シール材／せっこう系パテまたはセキスイ耐火パテ
※PF管等を含む場合はセキスイ耐火パテが必要
被覆付針金または針金
施工写真用カメラ

★人員配置

作業員(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

空配管での認定は受けておりません

★共通事項

建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

★各手順詳細／注意事項

【貫通措置】

- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
鋼管の設置位置に留意する(全長または中心からの長さ)
- ② 開口部の埋め戻し
埋戻し厚さに留意する ※中空壁であっても両側に施工が必要です
配管内にPF管等を收容する場合はセキスイ耐火パテを使用する
- ③ フィブロックを巻き付ける
鋼管へのかぶり(30mm以上)に留意する
- ④ 針金(Φ0. 39mm以上)で固定する
ケーブルへのストレスに留意する
- ⑤ 認定(評定)シールを貼り付ける
施工会社／施工年月を記入する
- ⑥ 貫通措置完了
作業箇所および周辺を確認する



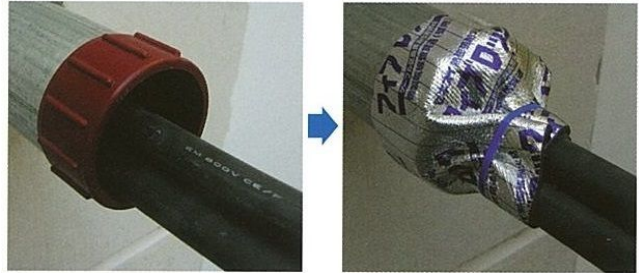
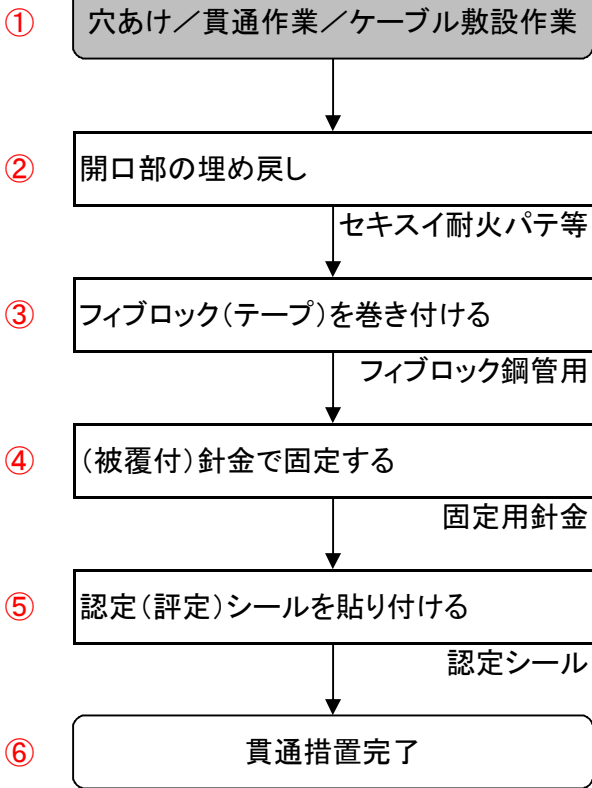
補助材



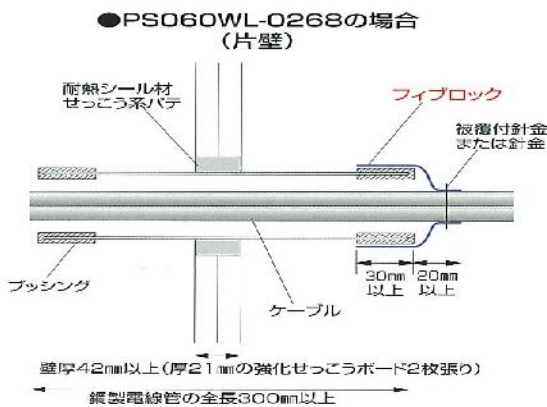
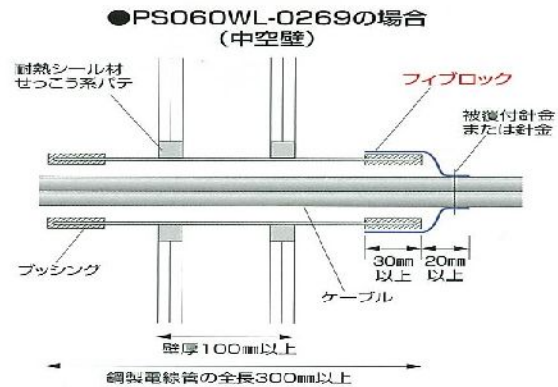
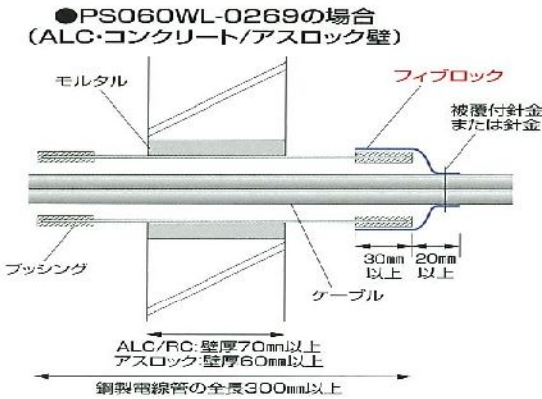
防火区画貫通措置／フィブロック鋼管

穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する
認定シールに「施工会社」「施工年月」を記入して準備する

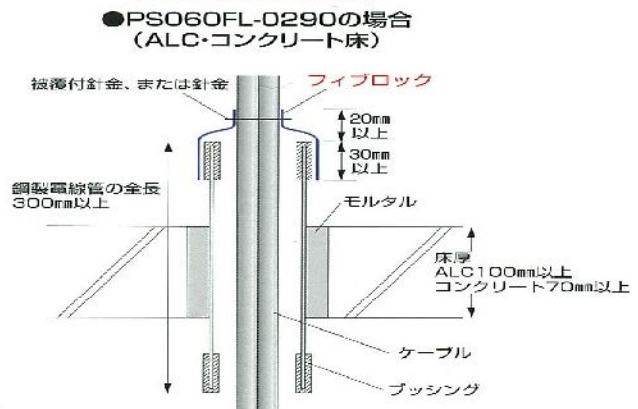
【貫通措置】



壁貫通の場合



床貫通の場合



※配管内にPF管等を收容する場合はセキスイ耐火パテを使用する必要があります

防火区画貫通措置／フィブロックPF管 壁面

★作業条件

貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
穴あけ／貫通作業および電線管の設置が完了していること
原則として全てのケーブル配線が完了していること
責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること

★準備

図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
モルタル(RC／ALC)
耐熱シール材／せっこう系パテまたはセキスイ耐火パテ
※準耐火壁45分の場合はセキスイ耐火パテが必要
被覆付針金または針金
施工写真用カメラ

★人員配置

作業員(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

火災時にPF管が延焼するため、空配管での認定は受けておりません

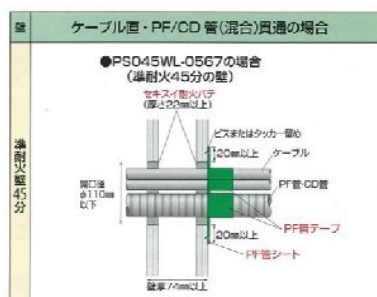
★共通事項

建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

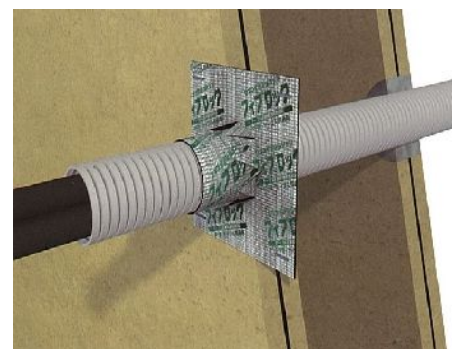
★各手順詳細／注意事項

【貫通措置】

- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
- ② 開口部の埋め戻し
埋戻し厚さに留意する ※中空壁であっても両側に施工が必要です
準耐火壁45分の場合はセキスイ耐火パテを使用する
- ③ フィブロック(テープ)を巻き付ける
鋼管へのかぶり(30mm以上)に留意する
- ④ フィブロック(シート)を貼り付ける
切れ目に隙間が生じないように貼り付ける
- ⑤ フィブロック(シート)をビス止めする
4点止めする
- ⑥ 認定(評定)シールを貼り付ける
施工会社／施工年月を記入する
- ⑦ 貫通措置完了
作業箇所および周辺を確認する



*ケーブル管のみの貫通も可能
*PF/CD管のみの貫通も可能

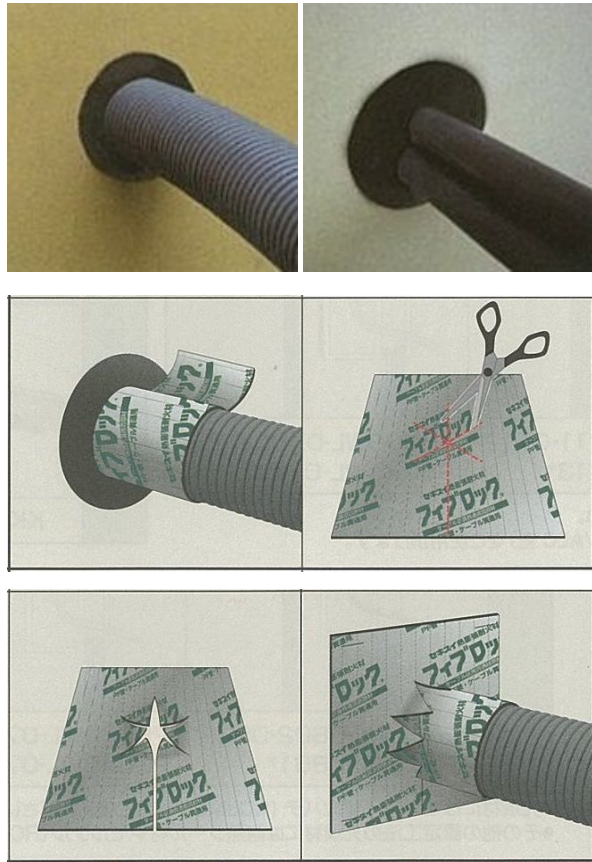


防火区画貫通措置／フィブロックPF管 壁面

穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する
認定シールに「施工会社」「施工年月」を記入して準備する

【貫通措置】

- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
- ② 開口部の埋め戻し
セキスイ耐火パテ等
- ③ フィブロック(テープ)を巻き付ける
フィブロックPF管用
- ④ フィブロック(シート)を貼り付ける
フィブロックPF管用
- ⑤ フィブロック(シート)をビス止めする
- ⑥ 認定(評定)シールを貼り付ける
認定シール
- ⑦ 貫通措置完了



	ケーブル直のみ貫通の場合	PF管/CD管のみ貫通の場合	ケーブル直・PF/CD管(混合)貫通の場合	
ALC/コンクリート壁	<p>●PS060WL-0297の場合 (ALC/コンクリート壁)</p> <p>ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管テープ PF管シート ALC 75mm以上 コンクリート 70mm以上</p>	<p>●PS060WL-0213の場合 (ALC/コンクリート壁)</p> <p>ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート ALC 75mm以上 コンクリート 70mm以上</p> <p>※PF/CD管3本まで</p>	<p>●PS060WL-0372の場合 (ALC/コンクリート壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ50mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ 壁厚100mm以上</p> <p>◆PF管シートは不要です。</p>	<p>●PS060WL-0372の場合 (ALC/コンクリート壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ50mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ 壁厚100mm以上</p> <p>◆PF管シートは不要です。</p>
中空壁	<p>●PS060WL-0297の場合 (中空壁)</p> <p>充填材(厚さ20mm以上) ①耐火シール材※ ②セッコボート補修材 ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管テープ PF管シート 壁厚100mm以上</p>	<p>●PS060WL-0213の場合 (中空壁)</p> <p>充填材(厚さ20mm以上) ①耐火シール材※ ②セッコボート補修材 ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚100mm以上</p> <p>※PF/CD管3本まで</p>	<p>●PS060WL-0371の場合 (中空壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ20mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚100mm以上</p>	<p>●PS060WL-0371の場合 (中空壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ20mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚100mm以上</p>
片壁	<p>●PS060WL-0358の場合 (片壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ42mm以上) ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管テープ PF管シート 壁厚42mm以上 (厚21mmの強化セッコボート2枚張り)</p>	<p>●PS060WL-0358の場合 (片壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ42mm以上) ビスまたはタッカー留め ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚42mm以上 (厚21mmの強化セッコボート2枚張り)</p>	<p>●PS060WL-0358の場合 (片壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ42mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚42mm以上 (厚21mmの強化セッコボート2枚張り)</p>	<p>●PS060WL-0358の場合 (片壁)</p> <p>耐火シール材※ (厚さ42mm以上) ケーブル 開口径φ110mm以下 PF管CD管 PF管テープ PF管シート 壁厚42mm以上 (厚21mmの強化セッコボート2枚張り)</p>

防火区画貫通措置／フィブロックPF管 貫通

★作業条件

貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
 穴あけ／貫通作業が完了していること
 原則として全てのケーブル配線が完了していること
 責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること

★準備

図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
 コンクリートボンド等
 被覆付針金または針金
 施工写真用カメラ



積水フォーラー セキスイボンド #75

★人員配置

作業者(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

火災時にPF管が延焼するため、空配管での認定は受けておりません

★共通事項

建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

★各手順詳細／注意事項

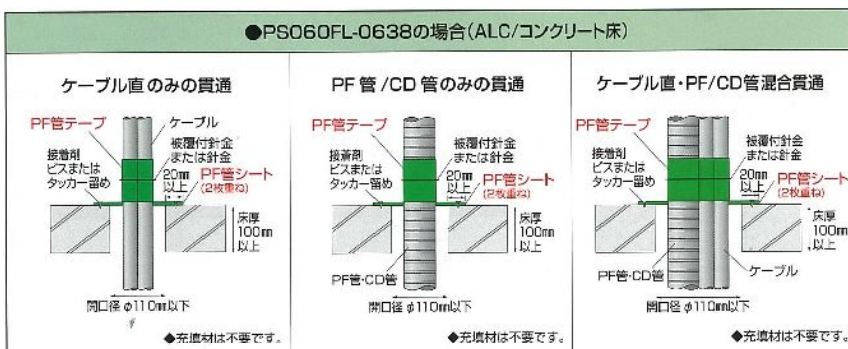
【貫通措置】

- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
 穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
- ② フィブロック(シート)を貼り付ける
 1枚目のシートにコンクリートボンド等を塗布して貼り付ける
 2枚目のシートにコンクリートボンド等を塗布して貼り付ける ※1枚目とは30mm以上かぶらせる
 切れ目に隙間が生じないように貼り付ける
- ③ フィブロック(シート)をビス止めする
 6点止めする
- ④ フィブロック(テープ)を巻き付ける
 隙間が生じないように巻きつける
- ⑤ テープ部を針金(Φ0.39mm以上)で固定する
 ケーブルへのストレスに留意する
- ⑥ 認定(評定)シールを貼り付ける
 施工会社／施工年月を記入する
- ⑦ 貫通措置完了
 作業箇所および周辺を確認する



PF管シート
SBCZ001

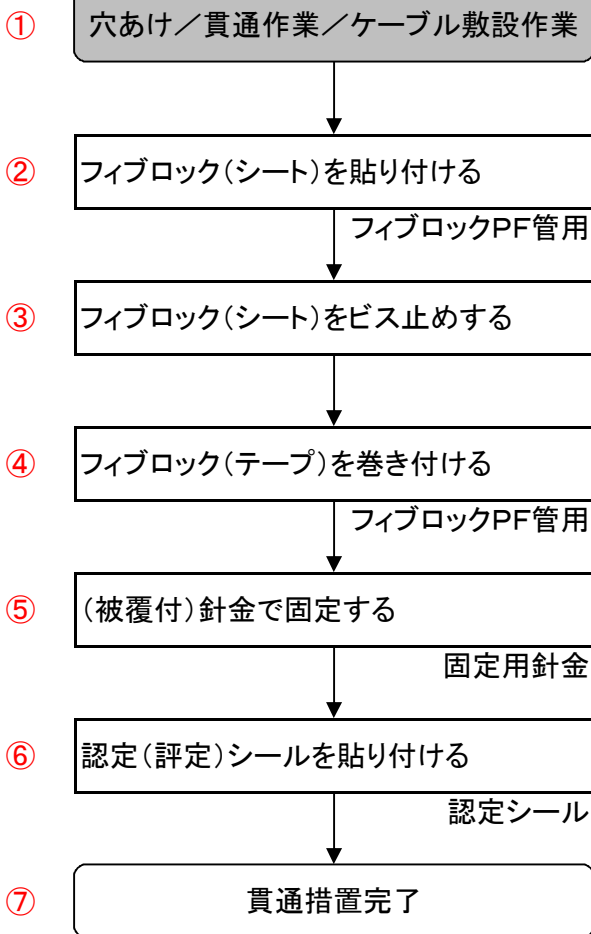
PF管テープ
TBCZ014



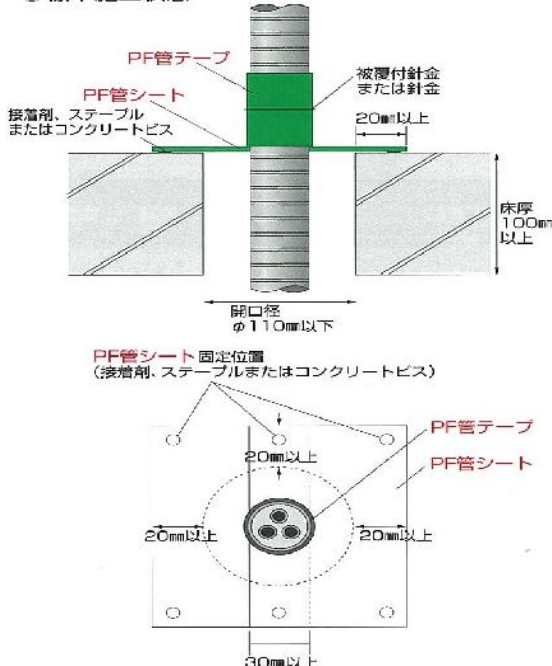
防火区画貫通措置／フィブロックPF管 貫通

穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する
認定シールに「施工会社」「施工年月」を記入して準備する

【貫通措置】



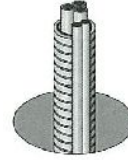
◎標準施工状態



標準施工方法

① 電線管・ケーブルの敷設

- 開口部を設置します(直径110mm以下)。
- 電線管・ケーブルを敷設します。

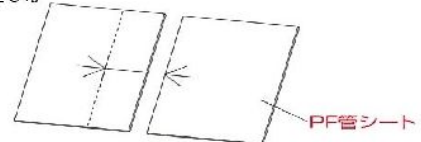


② PF管シートの貼り付け

- PF管シートを貼り付ける位置の埃・汚れを除去します。
- 必要サイズのPF管シートを2枚用意します。サイズは開口部の端から20mm以上、かつ2枚のシートが中央部で30mm以上重なるサイズとしてください。



- 電線管・ケーブルの本数・サイズに合わせて切り目を入れてください。

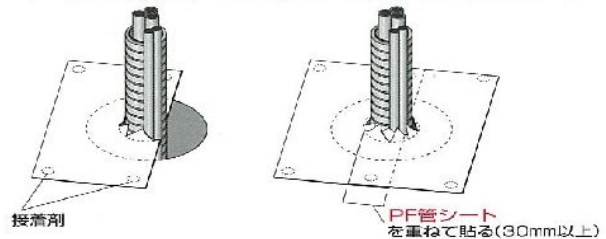


- 開口部の端から20mm以上、かつ2枚のシートが中央部で30mm以上重なるように設置します。

③ PF管シートの固定

<コンクリート専用のゴム系接着剤で固定する場合>

- 1枚目のシートの4隅に接着剤を塗布して床に固定します。
- さらに、2枚目のシートの4隅に接着剤を塗布し、1枚目のシートと30mm以上重なるように設置し、床に固定します。

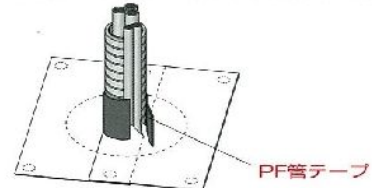


<ステーブルまたはコンクリートビスで固定する場合>

- 2枚目のシートを所定の位置に設置します。
- ステーブルまたはコンクリートビスで6カ所を固定します。

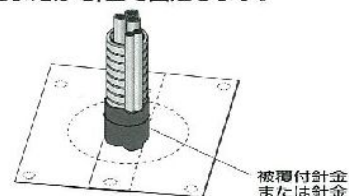
④ PF管テープの巻き付け

- PF管を巻く位置の埃・汚れを除去します。
- 電線管・ケーブルにPF管テープを1周以上巻き付けます。



⑤ 仕上げ

- 電線管・ケーブルにPF管テープが巻かれた部分を被覆付針金または針金で固定します。



防火区画貫通措置／フィブロック床丸穴

★作業条件

- 貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
- 穴あけ／貫通作業が完了していること
- 原則として全てのケーブル配線が完了していること
- 責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること
- 開口部がΦ110mm～Φ158mm以下の場合に適用 ※PF管用との耐火性能差はない

★準備

- 図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
- 施工写真用カメラ

★人員配置

- 作業者(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

- 耐火パックが破れている物は使用不可
- 火災時にPF管が延焼するため、空配管での認定は受けておりません

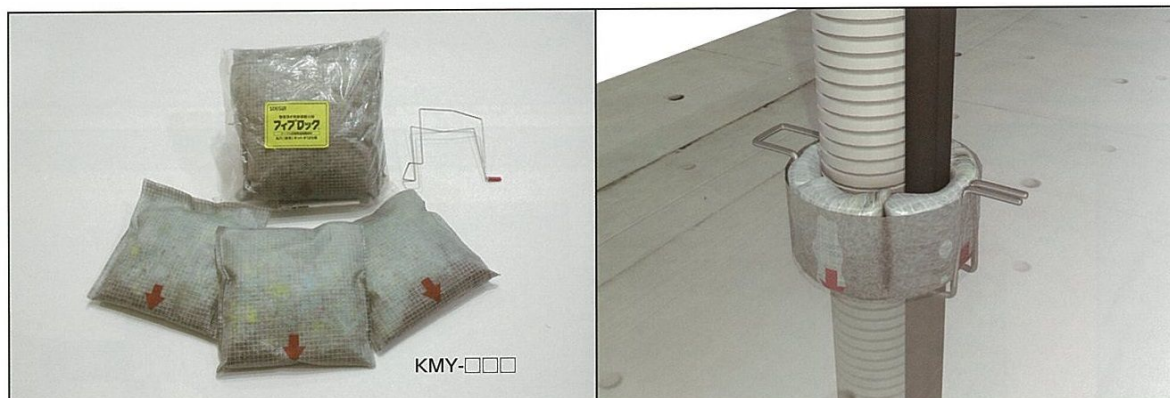
★共通事項

- 建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

★各手順詳細／注意事項

【貫通措置】

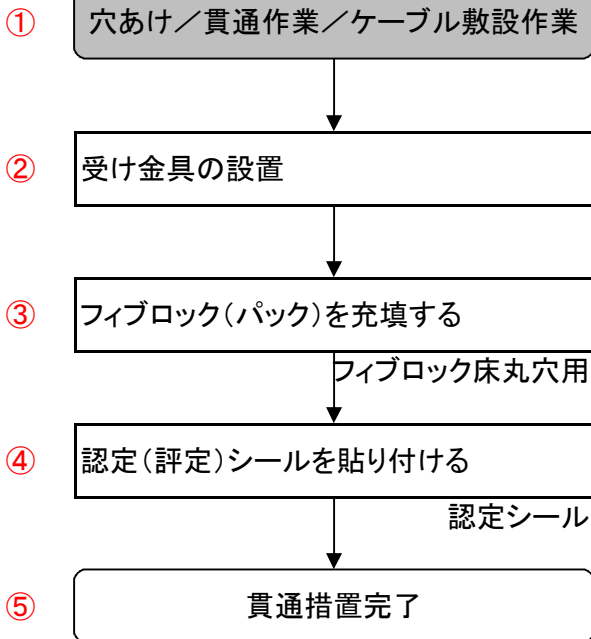
- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
- ② 受け金具の設置
ケーブルへのストレスに留意する
- ③ フィブロック(パック)を充填する
パックの矢印を下向きにして充填する
上下で重ならないように均等に充填する
隙間が生じないように充填する
- ④ 認定(評定)シールを貼り付ける
施工会社／施工年月を記入する
- ⑥ 貫通措置完了
作業箇所および周辺を確認する



防火区画貫通措置／フィブロック床丸穴

穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する

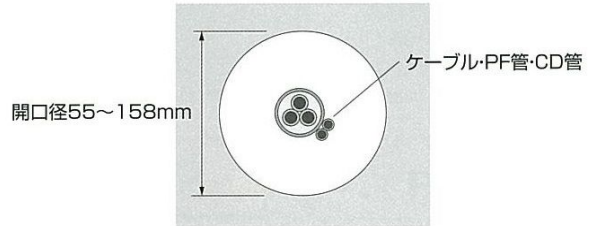
【貫通措置】



標準施工方法

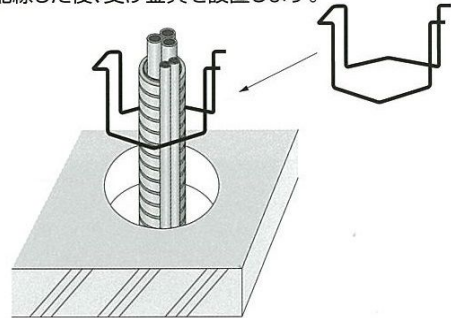
① 開口部の設置

- ケーブル等のサイズ・本数に応じて適正な占積率となるよう開口部を設けます。



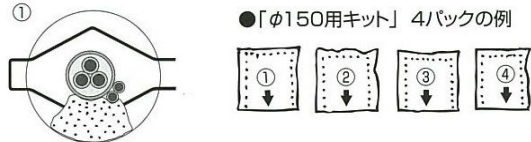
② 受け金具の設置

- 配管、配線した後、受け金具を設置します。



③ パックの充填

- 開口部に、パックをすき間ができないように、均等に充填します。

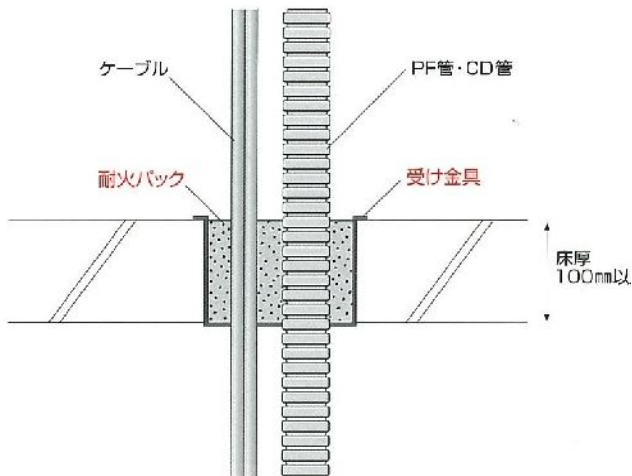


注意

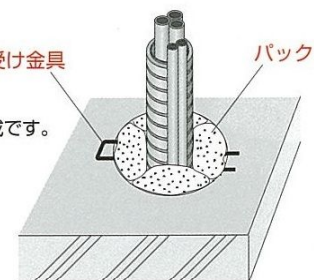
パックの矢印を下向きにして充填してください。

パックは残さずすべて充填してください。

施工完了後、すき間がないことを確認してください。



すべてのパックを充填して完成です。



◆パックは、上下で重ならないように、開口部に対し均等に充填してください。

防火区画貫通措置／フィブロックラック床

★作業条件

貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
穴あけ／貫通作業が完了していること
原則として全てのケーブル配線が完了していること
責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること

★準備

図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
支持金具固定部材 コンクリートボンド、両面テープ、ビス
躯体接触部充填剤 シーリング材(シリコンまたは変性シリコン)
推奨品：積水フーラー製 JIS A 5758
施工写真用カメラ

★人員配置

作業者(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

空配管での認定は受けておりません

★共通事項

建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

★各手順詳細／注意事項

【貫通措置】

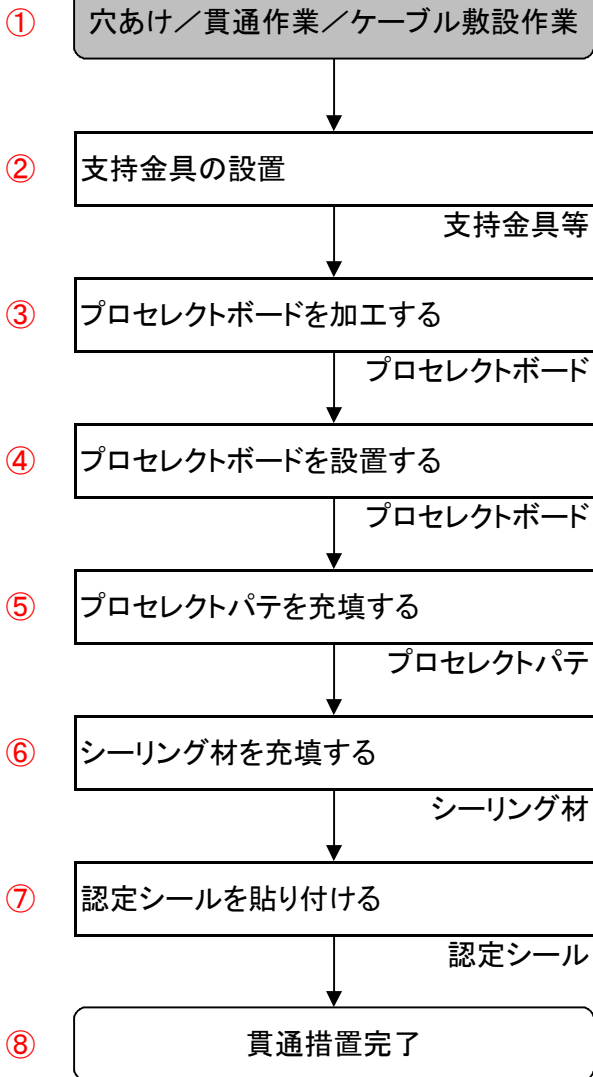
- ① 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
- ② 支持金具の設置
1辺につき1個以上設置する
- ③ プロセクトボードを加工する
ボードとケーブル／電線管との隙間は10mm以下とする
- ④ プロセクトボードを設置する
ボードとケーブル／電線管との隙間は10mm以下を確認する
- ⑤ プロセクトパテを充填する
盛り上げ高さ30mm以上、厚み20mm以上、かかり部10mm以上とする
- ⑥ シーリング材を充填する
隙間が生じないように充填する
- ⑦ 認定(評定)シールを貼り付ける
施工会社／施工年月を記入する
- ⑧ 貫通措置完了
作業箇所および周辺を確認する



防火区画貫通措置／フィブロックラック床

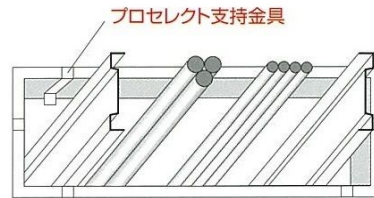
穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する
認定シールに「施工会社」「施工年月」を記入して準備する

【貫通措置】

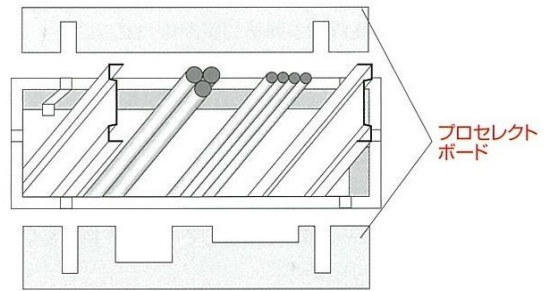


ケーブルラック標準施工方法(床の場合)

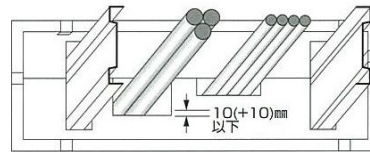
① 支持金具を必要に応じて接着剤、両面テープあるいはビスにて開口部に設置します。支持金具は1辺につき1個以上設置します。



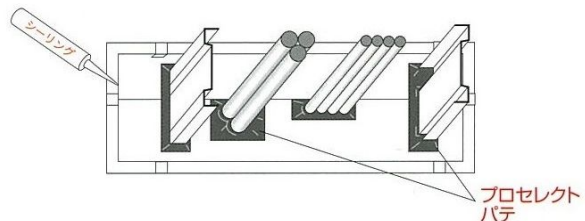
② プロセレクトボードを開口部の寸法、貫通部のケーブル・電線管等の形状に合わせて切断します。その際、プロセレクトボードとケーブル・電線管との隙間は、 $10(+10)$ mm以下とします。



③ 手順2で加工されたプロセレクトボードを開口部に設置します。その時、支持金具にあたるまでプロセレクトボードを押し込みます。

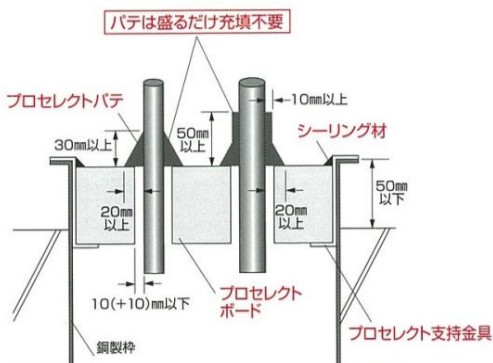


④ ケーブルとプロセレクトボードとの隙間は、プロセレクトパテを用いて密に充填します。その場合、プロセレクトボード上面から盛り上げ高さ30mm以上、厚み20mm以上（プロセレクトボードとのかかり代部は10mm以上）とします。



⑤ プロセレクトボードと鋼製スリーブ又は、躯体(床板)の接触部にシーリング材(シリコンあるいは変性シリコン)を施工します。

ケーブルラック床の標準施工図



防火区画貫通措置／フィブロックラック壁

★作業条件

- 貫通部に適合した部材を事前に調査／準備し作業計画・承認を行っていること
- 穴あけ／貫通作業が完了していること
- 原則として全てのケーブル配線が完了していること
- 責任分解を明確にするため、必要に応じて施工写真で記録すること

★準備

- 図面(配管図／配置図／施工図／調査写真等)
- 支持金具固定部材 コンクリートボンド、両面テープ、ビス
- 躯体接触部充填剤 シーリング材(シリコンまたは変性シリコン)
- 推奨品：積水フーラー製 JIS A 5758
- 施工写真用カメラ

★人員配置

- 作業者(講習受講者が望ましい)

★禁止事項

- 空配管での認定は受けておりません

★共通事項

- 建築基準法／消防法に沿って施工を行うこと

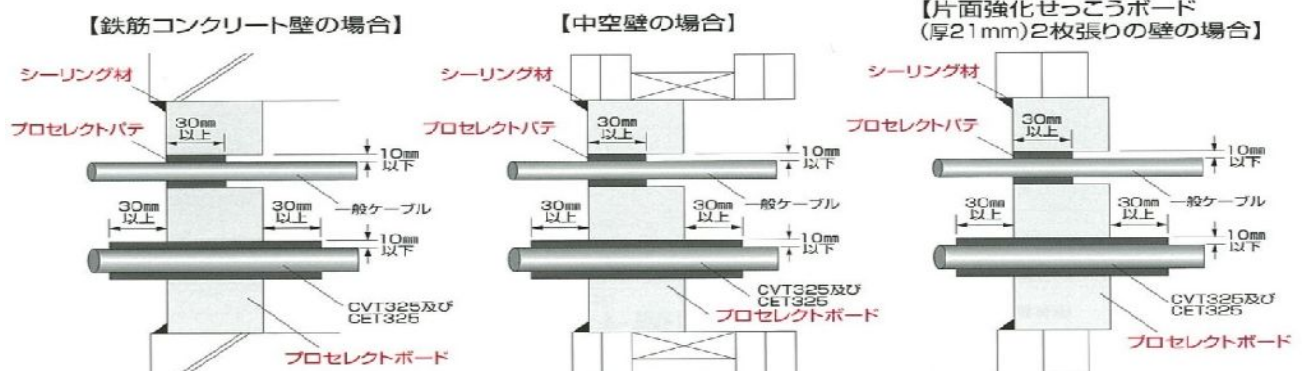
★各手順詳細／注意事項

【貫通措置】

- 穴あけ／貫通作業／ケーブル敷設作業
穴あけ／貫通作業時は埋設物に留意する
- 支持金具の設置
1辺につき1個以上設置する
- プロセレクトボードを加工する
ボードとケーブル／電線管との隙間は10mm以下とする
- プロセレクトボードを設置する
ボードとケーブル／電線管との隙間は10mm以下を確認する
- プロセレクトパテを充填する
充填30mm以上
CVT325およびCET325は全て充填＋盛り上げ長さ30mm以上、かかり部10mm以下とする
- シーリング材を充填する
隙間が生じないように充填する
- 認定(評定)シールを貼り付ける
施工会社／施工年月を記入する
- 貫通措置完了
作業箇所および周辺を確認する



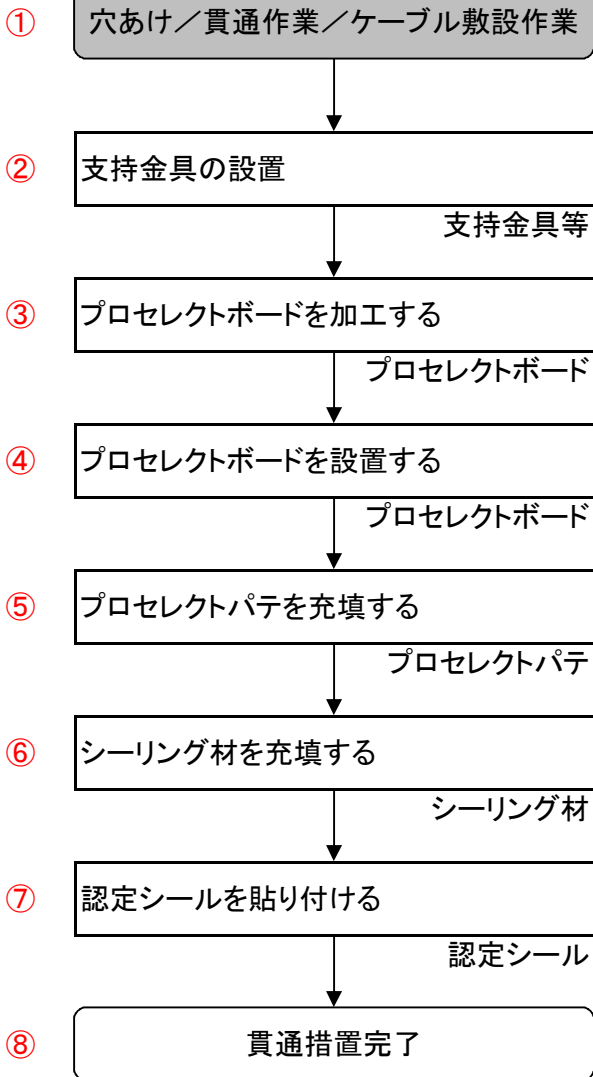
ケーブルラック壁の標準施工図



防火区画貫通措置／フィブロックラック壁

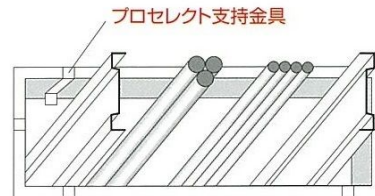
穴あけ／貫通作業およびケーブル敷設作業が完了している事を確認する
認定シールに「施工会社」「施工年月」を記入して準備する

【貫通措置】

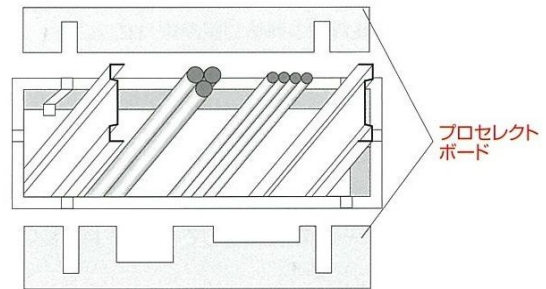


ケーブルラック標準施工方法

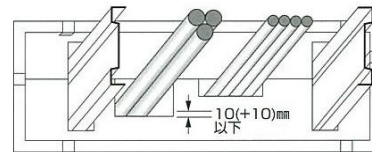
- ① 支持金具を必要に応じて接着剤、両面テープあるいはビスにて開口部に設置します。支持金具は1辺につき1個以上設置します。



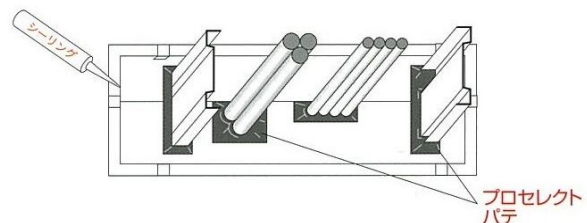
- ② プロセレクトボードを開口部の寸法、貫通部のケーブル・電線管等の形状に合わせて切断します。その際、プロセレクトボードとケーブル・電線管との隙間は、10(+10)mm以下とします。



- ③ 手順2で加工されたプロセレクトボードを開口部に設置します。その時、支持金具にあたるまでプロセレクトボードを押し込みます。



- ④ ケーブルとプロセレクトボードとの隙間は、プロセレクトパテを用いて密に充填します。



- ⑤ プロセレクトボードと鋼製スリーブ又は、躯体(壁面)の接触部にシーリング材(シリコンあるいは変性シリコン)を施工します。